

第5回日中韓三カ国環境大臣会合
2003年12月13 - 14日、北京、中国
共同コミュニケ（仮訳）

1 解振華中華人民共和国国家環境保護総局長の招待により、小池百合子日本国環境大臣と韓明淑大韓民国環境部長官は、北京を訪問し、2003年12月13日及び14日に第5回日中韓三カ国環境大臣会合（T E M M）を開催した。また、三大臣は、2003年12月13日に北京の中南海において、曾培炎中華人民共和国國務院副総理を表敬訪問した。

2 三大臣は、昨年10月バリにおいて三カ国の指導者によって調印された、三カ国間協力の促進に関する共同宣言に勇気づけられた。環境協力の分野において、三大臣はまた、2001年の三カ国首脳会議において、地域的な環境協力においてT E M Mが果たす主導的役割が三ヶ国首脳によって重視されたことを想起した。三大臣は、宣言の内容を実現するための地域的そして地球的な環境協力を強化する上で、T E M Mがより重要な役割を果たすべきであることに合意した。

3 三大臣は、昨年のヨハネスブルグにおける持続可能な開発に関する世界首脳会議の際に開催された前回の非公式会合を振り返り、経済発展、社会開発及び環境保護の統合の重要性に留意した。健全な環境が社会的経済的持続可能性のために必要不可欠なものであるとの認識に立ち、三大臣は、持続可能な開発のための国際的な努力に貢献する責任を再確認した。三大臣はまた、ヨハネスブルグ実施計画に取り組むための具体的方法について議論した。

4 三大臣は、第4回T E M M以降の各国における環境管理における進展について概観した。三大臣はまた、来る20年の間にG D Pを現在のレベルの4倍に高めることを目指す経済成長を推進する一方で、環境を改善するために、中国政府によって設定された新たな目標について、満足をこめて、これに留意した。三大臣は、三カ国の国内における環境面での努力が人類社会の向上にとって不可欠であり、国際社会によって支持されるべきであるとの意見を共有した。三大臣は、地域的及び地球的な環境改善に向けて協調的努力を高めることに同意した。

5 三大臣は、様々なT E M Mプロジェクトの成果を高く評価し、これらのプロジェクトの拡充と継続的に成果をあげていくことに対する支援を誓約した。三大臣はまた、子供の環境教育と人的資源交流の推進が非常に重要であるとの考えを示した。

6 地球環境問題に関し、三大臣は、警告されている深刻さに対して強い懸念を表明し、このような問題に取り組むための国際社会による積極的な前進を推奨した。議論は、とりわけ、気候変動、生物多様性、オゾン層破壊、酸性雨に及んだ。三大臣は、主要な国際会議の際に会合をもち、これらの問題をさらに検討することで合意した。

7 三大臣は、2003年12月1日から12日にかけてイタリアのミラノで開催された国連気候変動枠組条約第9回締約国会議（U N F C C C）の結果について省察した。三大臣は、気候変動枠組条約の究極的の目標に向けて三カ国はあらゆる可能な努力を行うべきであると認識した。地球規模の気候変動への取組において京都議定書の重要性を一層認識するとともに、議定書の早期発効と効果的な実施を確実なものとするため、京都議定書を批准していない国に対し、早期に批准するよう求めた。三大臣は、共通だが差異のある責任に基づく地球規模での参加が求められる緊急の課題である気候変動に対する三カ国による継続的な努力を評価しつつ留意した。

8 三大臣は、韓国が、2004年3月29日から31日にかけて、済州島において、第8回国連環境計画（U N E P）特別管理理事会／第5回グローバル閣僚フォーラムをホストすることを歓迎した。この管理理事会がアジアで開催される初めての機会であることを認識し、三大臣は、このセッションの成功に向けて緊密な協力を行うことを決定した。最初の段階として、三大臣は、1999年からのT E M M事業の性格とその成果の詳細を記載したパンフレットを発行することで合意した。

9 T E M Mは、地球的そして地域的な環境問題に対処することを意図した、行動指向の協力体であるとの理解の上で、三大臣は、地球的そして地域的な環境面での努力におけるT E M Mの強化とその役割の拡大の必要性を強調した。この目的のために、三大臣は、T E M Mの指導理念、すなわち、地域全体にわたる福利のための協調と相互尊重の精神を、アジアの残りの地域に広めるための持続的な努力を行うことで合意した。

10 大気汚染に関し、三大臣は、酸性雨は中国、日本、韓国の直面する深刻な課題であることに留意した。三大臣は、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（E A N E T）と北東アジア長距離越境大気汚染共同研究（L T P）の活動を活発に推進していくという責任を再確認した。

11 三大臣は、北東アジア地域の干ばつや土壌劣化により、悪化している黄砂について注目した。環境管理のためのキャパシティビルディングに加えて、黄砂のモニタリングと早期警報システムづくりを進めることの必要性を認識した。三大臣は、更なる行動をとるために、関連するプロジェクトを協力して推進していくことに合意した。

12 北西太平洋の海洋及び沿岸の環境保全のために、U N E Pが主導している北西太平洋地域海行動計画（N O W P A P）に関して、三大臣は地域調整部（R C U）のできるだけ早期の設立が重要であること、N O W P A Pの活動を活発に推進していくため、三カ国がより一層協力していくことに合意した。

13 三大臣は、次回のT E M Mが日本で開催されることで同意した。時期及び開催地は、開催国が提案し、韓国と中国が確認することとした。

14 三大臣は、今年の会合の結果及び本会合が友好的な雰囲気で行われたことについて深い満足の意を表した。小池百合子大臣と韓明淑長官は、解振華大臣に対し、その温かい歓迎ともてなしに対し、感謝の意を表した。

（署名）

小池百合子
環境大臣
日本国

（署名）

韓明淑
環境部長官
大韓民国

(署名)

解振華

國家環境保護總局長

中華人民共和國